

実施日： 6月16日～1月25日	
領 域： 総合的な学習の時間	
取組名： ROSEタイム	
対 象： 全校生徒	実施場所： 教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的な学び合いを通して主体性を育成し、自己肯定感を培う。 よりよい人間関係の構築や人間関係の活性化に向け、異学年グループを中心にした交流を通してコミュニケーション能力を養う。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> 全校生徒を対象とし、おおよそ縦割り5班を編成する。1班は先生役（チューター）1名、生徒役（ST）2名の3名で、チューターには課題の事前指導をするとともに、課題の事前学習をさせておく。 アイスブレイクとしてコミュニケーション・トレーニング（コミトレ）を実施し、実践を通じた「話す力」の定着を図る。 各教室のリーダーの指示で各班のチューターが演習問題を配り、問題に取り組む様子を見守ったり、適宜、ヒントを与えたりできるように支援する。 チューターが答えを伝えて各自答え合わせをし、間違ったところや分からなかったところをチューターが教えられるように支援する。 確認問題→チャレンジ問題→チューター自作の問題に取り組ませる。必要に応じてチューターがヒントなどを伝えられるように支援する。 生徒には、スコアシートの記入とアンケートの入力をさせる。 	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 学校ホームページや学校便りにROSEタイムの感想やアンケート結果を掲載する。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> 大学の教授を講師に迎え、全教職員が「教え合い学習について」の研修会を行う。 QU分析結果や数学の授業の様子を見てチューターを決定する。 人間関係に十分に配慮し、教え合い学習が成り立つ座席配置、グループにする。 チューターには事前学習をさせておき、相手が「分かった」となるための教え方「褒め方」の工夫ができるようにする。 毎回のROSEタイムのアンケート結果をもとに、職員研修等で振り返り、改善していく。 教師は、指示を出さず見守り、必要に応じて助言や示唆等の支援をする。 	
カ 評価の方法、 <ul style="list-style-type: none"> スコアシート（別紙⑥～⑧）ワークシート内『評価の観点』『自己評価』部分） ・ アンケート 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査（別紙⑩～⑪）等から、チューターは自分の解説にSTが理解することで喜びや達成感を得られたことが見受けられ、さらに、STは疑問に思うことや分からないことをすぐに尋ねることができる環境に安心して学習できていたことが見受けられる。STの中には、「チューターのように自分も活躍したい」と思う生徒もいた。このことから、自己肯定感や主体性の高まりを生むことができた。 学年を超えた様々な人との接し方を学び、コミュニケーションをとることの楽しさに気づく生徒が多く見られたことから異学年の生徒との交流の中で、相手意識をもったコミュニケーションの実践的スキルの高まりを生むことができた。 	
ク 課題 人間関係に配慮したグループ作りについて年度当初に生徒の力量、人間関係を把握することが難しく、より人間関係の活性化を生むための、各教職員による生徒の状況の把握や教職員同士の情報共有等の連携を強化する必要がある。	